

南京都病院ニュース

2019 春号
No.54

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News

新院長あいさつ

院長 坪井 知正



平成31年4月1日、院長に着任いたしました。呼吸生理学と呼吸管理を専門とする呼吸器科医で、臨床医としても研究者としても、まだ現役です。普通であれば、院長としての抱負や今後の病院方針に関して述べるところですが、それでは全く面白くないと思いますので、かわりに、私の履歴を簡単にご紹介いたします。

京都大学理学部大学院で固体表面物性の研究後に、科学者としての力量に見切りをつけ、京都大学医学部に入りなおしました。卒業後、滋賀県の大津赤十字病院で研修したのち豊郷病院に着任しました。居心地が良かったため豊郷で地域医療に一生を捧げようと考えていましたが、裁判官の妻（現在、大阪高等裁判所判事です）がもう京都に帰りたく強く主張するため、泣く泣く、平成4年より京都大学胸部疾患研究所の大学院生になりました。

胸部疾患研究所では大井元晴先生の指導のもとマスクを用いた非侵襲的陽圧人工呼吸（NPPV）の研究と臨床を開始しました（日本で最初にNPPVを始めたのは京都大学の私どものグループです）。当時、前京都大学副学長の三嶋理晃先生や現在兵庫医科大学で生理学の教授をされている越久仁敬先生といった優れた研究者の影響を受けました。

大学院修了後の平成8年に、妻の転勤があり、今度も泣く泣く、国立療養所東京病院に就職しました。東京病院では町田和子先生の指導のもと慢性呼吸不全の臨床に携りました。とてもフランクでフレンドリーな先生ばかりのなかで医療ができたため、私の自由な気性にとってもあっていました。また、呼吸リハビリテーションの先進的病院でしたので、多くの知識と経験を得ることができました。最先端だったNPPVの技術に加えて呼吸リハビリテーションのノウハウまで獲得できましたので、自分ながら、「呼吸管理において日本最強の医師になった」と確信（妄信）しておりました。

呼吸不全の方々を対象に東京病院で臨床研究を展開しようと考えていた矢先、また妻が関西に帰りたく強く主張しましたので、大変困りました。その頃には、胸部疾患研究所が消滅寸前で、帰る場所もなく途方にくれました。新潟市で開催された日本結核病学会総会に出席した時に、たまたま、南京都病院の佐藤敦夫先生に「帰る場所がなくて困っている」ことを立ち話でお話したところ、翌日には当時の倉澤卓也院長が京大に行って「坪井をくれ」と言ってくれたようで、その後すぐに南京都病院への転勤が決まりました。

結局、平成11年4月より南京都病院に勤務しております。平成20年からの2年間あまりは陳和夫先生が始めた京都大学の新しい教室の立ち上げに准教授として参画し、研修医・大学院生等の教育に従事しました。その後、組織の立て直しのため南京都病院に呼び戻され、しばらくして副院長になり、「会議」と「宴会」が主たる仕事となりました。私自身は臨床医が天職と信じており、できるだけ多くの患者さんを診たいのですが、外来や病棟業務は「坪井先生のホビー」と職員から言われているようです。院長になれば「会議」が減るので、今までよりは臨床に関わる時間が確保できるのではないかと期待しています。

つらつらと自己紹介を書き連ね申し訳ありませんでした。近隣の医療機関の先生方、行政機関の方々、なによりも患者・ご家族の方々、今後ともよろしくお願い申し上げます。

脳神経内科の専門外来を増設します

臨床研究部長 川村 和之



南京都病院脳神経内科は平成31年4月から、「物忘れ・認知症」「てんかん」「パーキンソン病」「手足のしびれ」の4つの専門外来を完全予約制で開設しました。

神経疾患というと「稀な病気」というイメージを持たれがちですが、決してそうではありません。例えば、「認知症」有病率は65歳以上で7人に1人、「てんかん」は60歳以上で10人に1人、「パーキンソン病」は60歳以上で100人に1人と報告されています。社会の高齢化とともに患者数は増加の一途であり、神経疾患は誰もが罹りうる身近な病気になっています。しかしながら、神経疾患は脳神経内科医の神経診察なしに頭部MRI検査や血液検査などの検査結果にのみ基づいて診断することが出来ないため、しばしば病気が見逃されています。

専門外来は「よくある神経疾患」に焦点を当てて開設しました。専門医取得や京都大学での臨床と研究を通して知識、技能、経験を積んだ医師がそれぞれの専門外来を担当いたします。原因のよくわからない「物忘れ」「ふらつき」「転倒」「手足のしびれ」などの症状で、お困りの方は是非一度専門外来を受診して下さい。山城北地域で、質の高い脳神経内科医療を幅広く提供していけるよう努力していきたいと思っております。

通所事業所「しらうめ」の利用定員を増やします

診療部長 徳永 修

当院では2015年春に、地域で生活されている重い障がいを抱えた方々が彩りのある、豊かな日中生活を送る場を提供することを目的に多機能型通所事業所「しらうめ」を開設しました。開設当初は利用者の少ない日もありましたが、時間を経るにしたがって、「しらうめ」での丁寧な医療的対応と楽しい日中活動の様子が知られるようになり、徐々に利用希望者も増加して参りました。現在は40名以上の方々が利用登録をされて、体調に応じた頻度でご利用を頂いています。

これまで、定員5名で運営して参りましたが、最近は皆さんの利用希望に応じることが困難な日も増えてきました。このような状況をふまえ、この度、利用定員を7名へと増やすことと致しました。定員が増えたのちも、これまでと同様に、安全で、安心できるサービスの提供に努めて参ります。



シニア医師も頑張っています



外科シニア医師 浅野 昇

3年目のシニア医師です。研修医時代の先輩の先生より、「患者の訴えに常に耳を傾けて診療に当たりなさい」と教えられ実践してまいりました。

平成も残り1カ月余りとなり、新年号に変わっても初心を忘れずに日々の診療に当たりたいと思います。

68才のシニア医師ですが、若い先生方の足手まといにならないよう頑張りますので、宜しくお願い致します。



脳神経内科シニア医師 杉山 博

平成30年9月に定年退職したので高齢者になりましたが、人生100年時代にあってはまだまだ老け込んではいられません。自分より若い先生方、さらに若い先生方の力を借りながら、足りないところは補い合って診療しています。“生涯一医師”を目指して努めますので、よろしくお願いします。

医師向け結核研修会を終えて

副院長 佐藤 敦夫

本年度もまたメルパルク京都で、11月17日医師向け結核研修会を開催いたしました。土曜日にもかかわらず、今年も55名の先生方にご参加いただき、会場はほぼ満席の状態、熱心に聴講いただきました。結核対策を着実に継続することで、年々結核患者は減少しておりますが、昨年も病院を舞台にした大規模な結核集団感染が報告されました。結核患者さんの高齢化、外国人結核の増加、耐性結核への対策など新たに取り組まなければならない問題も山積しております。結核についての基本的な情報に加え、最新の情報をお伝えする機会として継続して参りたいと思います。



結核研修会(コメディカル)について

看護師長 濱村 恵子

10月18日に文化パルク城陽で、保健師・看護師・介護職員・薬剤師の方々69名にご参加を頂き結核研修会を開催しました。結核の基礎知識や結核発生時の対応、結核の検査や服薬支援について。そして平成29年11月にユニット化になった当院の結核病床と退院支援の実際について事例を交えて紹介させていただきました。参加者からは「結核についてよく分かった」「服薬支援の大切さを再認識した」など感想がありました。今後も引き続き、地域と連携を取りながら結核患者さんへのより良い支援ができるよう取り組んでいきたいと思っております。



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

「自分や家族が受けたいと思う医療を提供する」ことを心掛けています

医療法人たつみ内科クリニック

内科

消化器内科

院長 辰巳 陽一 先生



2018年(平成30年)5月に医療法人かみほぎ医院を継承し、たつみ内科クリニックを開院いたしました。「自分や家族が受けたいと思う医療を提供する」ことをモットーに、消化器病・消化器内視鏡専門医として「身近な最新の内視鏡検査・消化器診療」を目指しています。また総合内科専門医として

生活習慣病を含めた内科全般についても丁寧に適切な診療を行い、地域の皆様の健康維持・増進のお手伝いができればと考えております。食道・胃・大腸の内視鏡検査以外に超音波検査、血液・心電図・X線検査、骨密度検査、血管・肺年齢検査、睡眠時無呼吸検査などについても積極的に行っています。CT・MRI検査などは最も近い南京都病院にお願いすることが多く、大変お世話になっております。また呼吸器疾患・脳神経内科疾患などで専門的治療をお願いすることもあり、並行して継続的に当院にも通院頂いている患者さんも多数おられます。今後とも地域の患者さんのために良い関係を保ちますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 京都府城陽市市辺小梨間31-10
- TEL 0774-55-1937
- FAX 0774-55-1933

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前診 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●	●
午後診 14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	○
午後診 17:00~19:00	●	●	●	●	●	●	●

- 休診 木曜日、土曜日午後、日曜日祝日



住み慣れた街で誰もが安心して暮らせるように

株式会社 絆 訪問看護ステーション 絆

訪問看護

訪問看護ステーション絆は、京阪木幡駅から徒歩10分の場所に2011年6月に開所。

熟練した看護技術と知識を持った訪問看護師が、ご自宅に訪問して病気の悪化防止や医師の指示のもとに点滴や床ずれの処置などの医療的な処置をお手伝いします。自宅で最期を迎えたい、迎えさせてあげたいという希望にも寄り添います。訪問看護師は、住み慣れた地域や自宅で、自分らしく生きることを支える専門職です。



- 京都府宇治市木幡西浦34番地4
- TEL 0774-66-1795
- FAX 0774-66-1796
- 営業時間: 8:45~17:15
(緊急時は365日24時間対応可)
- 相談専用: 0774-66-1775
- <http://kizuna-nurse.com/>



こはタウンの法人会員でもあり、「みんなが笑顔になれる地域」を目標に地元の商店街の方や事業所の方、地域住民の方と一緒に活動を始めました。まちの保健室こと「くらしあんしん療養相談室」も開いています。病気のこと、健康のこと、介護のことなどご相談ください。皆様の身近な存在として、気軽に立ち寄って頂ける訪問看護ステーションを目指したいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

西病棟4階病棟紹介

看護師長 山浦 新太郎

西病棟4階は、呼吸器内科・小児科・脳神経内科の診療科を持つ慢性期病棟です。病棟の特徴として、慢性の経過をたどり、継続的な治療やリハビリを必要とする患者さんが多く入院しています。

呼吸器内科では、呼吸器系疾患全般の治療・看護を行っており、日常生活援助に加え、酸素療法や人工呼吸器の管理、呼吸リハビリテーション、ながいき呼吸体操（ビデオの音楽にあわせて息を整える体操）、退院に向けた患者指導や退院支援を行っています。

チーム医療として、医師・理学療法士・作業療法士・栄養士・薬剤師・看護師など多職種による呼吸リハビリカンファレンスを週に1度行い、患者さんの情報を共有し、目標達成に向けて多



呼吸介助の場面です

職種で協働しています。また、当病棟には慢性呼吸器疾患看護認定看護師が1名と同教育課程を修了した看護師1名が在籍しています。認定看護師としての組織横断的な活動を開始しており、呼吸ケアの指導や教育研修の実施など、慢性呼吸器疾患患者の看護を専門的な視点でさらに充実させていけると期待しています。

小児科においては、医師・看護師・保育士・臨床心理士、隣接する支援学校の教師と連携しながら、通学できるよう支援しています。



ながいき呼吸体操を毎日行っています

規則正しい生活習慣の獲得や精神的サポートを行い、

今年度は退院支援にも積極的に取り組み、退院前・退院後訪問を計10件実施しました。在宅で生活する患者さんの住環境を知り、その患者さんに合わせた退院支援を行うことで不安が緩和され、安心した在宅療養生活が送れると実感し、これからも力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

西病棟4階は、これからも患者さんや家族の方の思いを汲み取り、その人に合わせた看護を提供できるようにスタッフ一同全力で患者さんや家族の方を支えていきます。



毎週、退院支援カンファレンスを行っています

新採用職員紹介

教育担当看護師長 山浦 新太郎

平成31年4月1日に辞令を受け、南京都病院の新メンバーとして入職しました。

南京都病院の理念である「分かりやすく、安全で安心して受けられる質の高い医療を提供します」をモットーに努力してまいります。どうぞよろしくお祈りいたします。



『健康フェア』を開催します

南京都病院は地域の皆さんの健康増進のお役に立ちたいと思っています。

『健康フェア』～笑顔は健康なからだから～開催します

日時 平成31年5月18日(土) 10時～16時

場所 アルプラザ城陽 1階プラムコート

内容 骨密度測定・血圧測定・呼吸機能検査・血圧年齢測定・キッズ写真コーナー・もの忘れチェック等 (無料)

交通のご案内

● 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
● JR学研都市線 京田辺から
● JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*...各駅より送迎車あり

診療科のご案内

● 呼吸器科	● 脳神経内科	● 小児科
● 内科	● 外科	● 消化器科
● 呼吸器外科	● 循環器科	● 整形外科
● 皮膚科	● リハビリテーション科	● 放射線科
● 麻酔科	● 歯科	● 耳鼻いんこう科 (併設中)

(入居患者のみ対象) (入居患者のみ対象)

独立行政法人国立病院機構
南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)
〒610-0113 城陽市中戸原11番地
TEL:0774-52-0065 FAX:0774-55-2765
URL: <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療連携室

電話受付期間の延長について
平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させていただきます。
電話受付時間
8:30～19:00 月～金(土・日・祝日休み)
TEL:0774-52-0181(直通)
0774-52-0065(代表)
FAX:0774-55-0270

予約状況を確認し、その場で受付日時をお変更いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。

E-mail: 407-rankei@mail.hosp.go.jp